

丸山真司 教授 経歴・業績



経 歴

1958年2月 静岡県浜松市水窪町生まれ

I 学歴

1976年3月 静岡県立浜松西高等学校 卒業

1980年3月 広島大学教育学部高等学校教員養成課程
体育科 卒業

1982年3月 広島大学大学院教育学研究科教科教育学
専攻（保健体育科教育）
修士課程 修了

II 学位

1982年3月 修士（教育学）広島大学大学院 教育学
研究科

2008年11月 博士（教育学）広島大学大学院 教育学
研究科

III 職歴

1982年5月 名古屋工業大学工学部 助手

1987年11月 名古屋工業大学工学部 講師

1991年3月 ドイツ連邦共和国ダルムシュタット
(Darmstadt) 工科大学スポーツ科学研究
所 客員研究員（1992年1月まで）

1993年4月 愛知県立女子短期大学児童福祉学科兼愛
知県立大学文学部児童教育学科 助教授

1998年4月 愛知県立大学文学部児童教育学科 助教
授

2003年4月 愛知県立大学文学部児童教育学科 教授

2004年4月 ドイツ連邦共和国ビーレフェルト
(Bielefeld) 大学スポーツ科学科 客員
教授（2005年2月まで）

2011年4月 愛知県立大学 キャリア支援室長（2013
年3月まで）

2018年4月 愛知県立大学 副学長（総括）・国際戦
略室長（2021年3月まで）

研究業績

I 学位論文

修士論文 体育の教授—学習活動におけるコミュニ
ケーション過程に関する研究（広島大学大
学院教育学研究科，1982年3月）

博士論文 体育科教育における実践を基盤にした教師
によるカリキュラム開発の方法に関する研
究（広島大学大学院教育学研究科，2008年
11月）

II 著書

1) 丸山真司（1984）：「学習集団の組織化」，佐藤裕・
坂本和丈編『体育の授業計画と教授—学習プログ
ラム—』，新体育社，57-62.

2) 丸山真司（1990）：「運動と学習」（第6章），宇津
野年一・三井淳蔵編『健康とライフスタイル』，
ぎょうせい，104-120.

3) 丸山真司（1994）：「体育科教育における社会学習
に関する研究—ドイツのスポーツ教育学における
『解放的 sociology 論』を中心に—」，坂本和丈・
松岡重信編『情報系体育科教育研究の系譜—佐藤
裕教授退官記念論文集—』，新体育社，179-196.

4) 丸山真司（1997）：「佐藤裕の体育実践・実践研
究」，中村敏雄編『戦後体育実践論 第2巻—独自
性の追求—』，創文企画，241-258.

5) 丸山真司（1999）：「体育における『歴史追体験学
習』の試み—バレーボールのルール変遷史を教材
にして—」，中村敏雄編『戦後体育実践論資料編
—戦後体育実践主要論文集—』，創文企画，406-

- 415.
- 6) 丸山真司 (2000) : 「小学校の実践プラン」(5章), 出原泰明編『教室でする体育—「体育理論」の授業づくり〈小学校編〉—』, 創文企画, 135-177.
- 7) 丸山真司 (2002) : 「子どもと運動文化—主として『うまくなる』ことの意味にかかわって—」, 川端有子・戸茆恭紀・難波博孝編『子どもの文化を学ぶ人のために』, 世界思想社, 208-222.
- 8) Shinji Maruyama (2004): Ein Alternativer Curriculumentwurf für den Schulsport von Sportlehrerinnen und Sportlehrern in Japan, S. Tazuke / Y. Okade / R. Naul (Hrsg.): Globalisierung des Sport; Zur Rolle der japanischen und deutschen Sportwissenschaft, Tadas Books Ltd., 175-182.
- 9) 丸山真司 (2008) : 「解説」, 丸山真司編『中村敏雄著作集3 体育の教材論』, 創文企画, 310-322.
- 10) 丸山真司 (2011) : 「体育カリキュラムの社会的構成をめぐる諸相—開発主体の問題に着目して—」, 日本体育科教育学会編『体育科教育学の現在』, 創文企画, 27-40.
- 11) T. Kondoh, Y. Okade, S. Tazuke, K. Hasegawa, S. Maruyama (2012): Forschungsbericht über Bewegte Schule in Deutschland und der Schweiz, Japan und Deutschland in der Globalisierung des Sports und der Sportwissenschaft, Das 7. Deutsch-Japanische Sportwissenschaftliche Symposium, Toshiyuki Ichiba (Hrsg.), Hilltop Press Tokyo, 121-134.
- 12) 丸山真司 (2012) : 「運動文化論を基盤にした体育」, 学校体育研究同志会編『新学校体育叢書 水泳の授業』, 創文企画, 207-222.
- 13) 丸山真司 (2015) : 「体育カリキュラムの社会的構成をめぐる諸相—開発主体の問題に着目して—」, 岡出美則・友添秀則・松田恵示・近藤智靖編『新版 体育科教育学の現在』, 創文企画, 27-40.
- 14) 丸山真司 (2015) : 『体育のカリキュラム開発方法論』(単著), 創文企画, 1-286.
- 15) 丸山真司 (2015) : 「これからの教科教育学にはどのような課題があるか」, 日本教科教育学会編『今なぜ, 教科教育なのか』, 文溪堂, 113-118.
- 16) 丸山真司 (2016) : 「体育で競争をどのように位置づけるか」, 友添秀則・岡出美則編『教養としての体育原理 改訂版』, 大修館書店, 58-63.
- 17) 丸山真司 (2017) : 「体育科—体育の授業づくりのために—」, 愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科編『小学校教育実践の基礎と展開—実践指導力を高める教職ハンドブック—』, 161-169.
- 18) 丸山真司 (2018) : 「単元の書き方—教科の背後にある文化的な特性と単元の関係—」(pp. 12-15), 「授業づくりからカリキュラムづくりへ」(pp. 76-79), 学校体育研究同志会編『スポーツ主人公を育てる体育・保健の授業づくり』, 創文企画.
- 19) 丸山真司 (2021) : 「教育課程・カリキュラム研究」, 日本体育科教育学会編『体育科教育学研究ハンドブック』, 大修館書店, 80-86.

III 論文

- 1) 丸山真司 (1981) : 「体育の教授—学習過程における双方向コミュニケーションとコンフリクト—」, 『教育学研究紀要』第27巻, 中国四国教育学会, 420-422.
- 2) 佐藤裕・坂本和丈・川西正行・長谷川裕・海野勇三・丸山真司 (1981) : 「幼児の知覚—運動行動と幼児体育教育—」, 『教育学研究紀要』第27巻, 中国四国教育学会, 442-445.
- 3) 丸山真司 (1982) : 「大学の一般教養課程における体育教育の課題—大学生の意識を中心に—」, 『教育学研究紀要』第28巻, 中国四国教育学会, 385-388.
- 4) 坂本和丈・佐藤裕・川西正行・長谷川裕・海野勇三・丸山真司 (1982) : 「テニス学習における教材の系列化と反省的行為」, 『教育学研究紀要』第28巻, 中国四国教育学会, 393-396.
- 5) 丸山真司 (1982) : 「体育の教授—学習過程におけるコミュニケーションに関する研究—」, 『名古屋工業大学学报』第34巻, 355-361.
- 6) 丸山真司 (1983) : 「体育授業における教示と運動表象」, 『教育学研究紀要』第29巻, 中国四国教育学会, 492-495.
- 7) 丸山真司 (1985) : 「グループ学習における反省活動の組織化—『問いかけ-応答』関係の学習過程への影響—」, 『教育学研究紀要』第31巻, 中国四国教育学会, 148-151.
- 8) 丸山真司 (1985) : 「運動学習における動作リズムに関する研究—運動表象との関係において—」, 『日本教科教育学会誌』第10巻第1号, 日本教科教育学会, 31-37.
- 9) 丸山真司 (1986) : 「体育授業における学習者の相互『観察-伝達』程—学習者同士の教えあいの組

- 織化を目指して一」、『教育学研究紀要』第33巻、中国四国教育学会、401-406.
- 10) 丸山真司 (1987) : 「体育科教育における発問構成に関する研究」、『日本教科教育学会誌』第12巻第1号、日本教科教育学会、43-50.
 - 11) 穂丸武臣・三井淳蔵・丸山真司・吉村篤司・植屋春見・町田望 (1988) : 「幼児の走行中の転倒と身体制御」、『教育医学』第34巻、日本教育医学会、205-211.
 - 12) 丸山真司 (1989) : 「体育授業のコミュニケーションにおける比喩的表現の体育教授学的意義—比喩的表現の役割と位置づけ—」、『日本教科教育学会誌』第14巻第1号、日本教科教育学会、25-33.
 - 13) 三井淳蔵他との共著 (1990) : Effects of Long Term Swimming Training on Children with Bronchial Asthma—On Physical Fitness and Blood Biochemical Constituents—, New Horizons of Human Movments, 1988 Seoul Olympic Scientific Congress Proceeding, Seoul Olympic Scientific Congress Organizing Committee, 480-489.
 - 14) 丸山真司 (1990) : 「体育の授業における子ども同士の『教え合い』と『合意形成』」、『体育科教育』第38巻第7号、大修館書店、51-55.
 - 15) 丸山真司 (1990) : 「体育の授業における『うまい子—へたな子』の教え合い」、『体育科教育』第38巻第8号、大修館書店、61-66.
 - 16) 丸山真司 (1993) : 「学習意欲を育てる体育の授業づくり」、『体育科教育』第41巻第5号、大修館書店、18-22.
 - 17) 丸山真司 (1993) : 「文化としての質が問われるこれからの『生涯スポーツ』」、『体育科教育』第41巻第14号、大修館書店、163-166.
 - 18) 丸山真司 (1994) : 「体育における『歴史追体験学習』の試み—バレーボールのルール変遷史を教材にして—」、『運動文化研究』Vol. 12, 学校体育研究同志会研究年報、43-53. (中村敏雄編: 『戦後体育実践論 資料編—戦後体育実践主要論文集一』, 創文企画、406-415に所収)
 - 19) 丸山真司 (1995) : 「子どものスポーツ観を育てる体育の授業づくりをめざして—スポーツに対する子どもの認知的興味(問い) 調査から—」、『たのしい体育・スポーツ』第14巻第9号、創文企画、8-11.
 - 20) 丸山真司 (1996) : 「今日の教科内容研究と体育におけるコミュニケーション研究の課題」、『たのしい体育・スポーツ』第15巻第1号、創文企画、36-39.
 - 21) 丸山真司 (1996) : 「小学校学習指導要領(体育)にみられる『跳び箱』教材観の変遷史」、『愛知県立大学児童教育学科論集』第29巻、107-117.
 - 22) 丸山真司 (1998) : 「『荒れる子』と学校体育の可能性—澤実践(『どついたらるか』のサッカーから『ようきばったの』のサッカーへ)が提起するもの—」、『体育科教育』第46巻第16号、大修館書店、19-22.
 - 23) 丸山真司 (1998) : 「『指導』か『支援』の論議を越えて」、『体育科教育』(『発信型』学校体育の創造) 第46巻第17号、大修館書店、61-64.
 - 24) 丸山真司 (1998) : 「体育におけるルール学習(1)—戦後学習指導要領における『ルール』の位置づけとルール学習の特徴及びその背景の考察を中心に—」、『日本教科教育学会誌』第21巻第3号、日本教科教育学会、1-13.
 - 25) 丸山真司 (1999) : 「ドイツのスポーツ教育における社会学習—Ulrike Ungerer-Röhrichの社会学習論の展開を中心に—」、『愛知県立大学文学部紀要』第46号、51-68.
 - 26) 丸山真司 (1999) : 「体育嫌いの対処法—カリキュラムづくりを中心に—」、『体育科教育』第47巻第13号、大修館書店、19-22.
 - 27) 丸山真司 (2001) : 「スポーツ教育の確立を目指して—教育課程づくりの視点から—」、『体育科教育』第49巻第1号、大修館書店、56-59.
 - 28) 丸山真司 (2001) : 「ドイツの教科スポーツカリキュラムにみられる必修及び選択制授業についての考察」、『日本スポーツ教育学会第20回記念国際大会論集』, 日本スポーツ教育学会、311-316.
 - 29) 森敏生・海野勇三・丸山真司・中瀬古哲・中西匠 (2001) : 「体育の教授—学習活動における共同的な課題の追求過程—」、『日本スポーツ教育学会第20回記念国際大会論集』, 日本スポーツ教育学会、335-340.
 - 30) 丸山真司 (2002) : 「高校体育のカリキュラムづくりの課題」、『体育科教育』第50巻第1号、大修館書店、42-45.
 - 31) 丸山真司 (2003) : 「教師たちの手による体育教育課程づくりによって教師の問題意識の何が変わるか!?', 『体育科教育』第51巻第3号、大修館書店、

- 38-42.
- 32) 丸山真司 (2004) : 「スポーツにおける『フェアネス』を教える体育の授業」, 『体育科教育』第52巻第3号, 大修館書店, 14-17.
- 33) 丸山真司・森敏生・海野勇三・中瀬古哲・田中新治郎・中西匠・石田智巳 (2005) : 「学校スポーツの「正当化」問題とスポーツ指導要領の開発プロセス—特にノルトライン・ヴェストファーレン州のスポーツ指導要領開発に注目して—」, 『日本スポーツ教育学会第25回記念国際大会論集』, 日本スポーツ教育学会, 147-153.
- 34) 丸山真司 (2006) : 「教師たちの手による体育の教育課程試案づくり—学校体育研究同志会教育課程自主編成プロジェクトの試みからの発信—」, 『体育科教育学研究』, 第22巻第1号, 日本体育科教育学会, 55-61.
- 35) 丸山真司 (2006) : 「学校を変える『起爆剤』としての体育のカリキュラムづくり」, 『体育科教育』第54巻第5号, 大修館書店, 20-23.
- 36) 丸山真司 (2006) : 「『私たちの教育課程試案』作成の意義とこれからの課題」, 『たのしい体育・スポーツ』第25巻第10号, 22-25.
- 37) 丸山真司 (2007) : 「ドイツの学校スポーツにおけるオリンピック教育の展開」, 『愛知県立大学児童教育学科論集』第40号, 61-74.
- 38) 丸山真司 (2008) : 「ドイツにおける教師によるスポーツ指導要領の評価」, 『日本教科教育学会誌』第30巻第4号, 日本教科教育学会, 89-98.
- 39) 丸山真司 (2008) : 「体育科教育における実践を基盤した教師によるカリキュラム開発の方法に関する研究」, 広島大学大学院教育学研究科学位論文(論文博士(教育学), 乙第4046号).
- 40) 丸山真司 (2008) : 「いま問われる教師の授業デザイン—大宮とも子の障害児体育実践に学ぶ—」, 『体育科教育』第56巻第13号, 大修館書店, 19-23.
- 41) 丸山真司 (2009) : 「教師による体育カリキュラム開発モデルの検討—石原一則と小山吉明の体育カリキュラム開発—」, 『愛知県立大学児童教育学科論集』第43号, 67-78.
- 42) 丸山真司 (2010) : 「体育教師の専門性が問われるカリキュラム開発」, 『体育科教育』第58巻第10号, 大修館書店, 22-25.
- 43) 丸山真司・伊藤嘉人 (2011) : 「教師による体育カリキュラムづくりに向けて」, 『たのしい体育・スポーツ』第30巻第6号, 創文企画, 8-13.
- 44) 丸山真司 (2011) : 「陶冶と訓育の統一過程としての体育実践の創造」, 『日本教科教育学会全国大会論文集』(第37回全国大会), 日本教科教育学会, 76-79.
- 45) 丸山真司 (2013) : 「ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州における *Bewegte Schule* の構想と実践」, 『愛知県立大学教育福祉学部論集』第61号, 135-144.
- 46) 近藤智靖, 岡出美則, 長谷川聖修, 田附俊一, 丸山真司 (2013) : 「ドイツとスイスにおける『動きのある学校』の理念の拡がりとその事例について」, 『体育学研究』第58巻第1号, 日本体育学会, 343-360.
- 47) 丸山真司 (2014) : 「体育カリキュラム開発の主体としての教師」, 『体育科教育学研究』, 第30巻第2号, 日本体育科教育学会, 73-80.
- 48) 丸山真司 (2015) : 「5人の実践研究とその軌跡に学ぶ」, 『たのしい体育・スポーツ』, 第34巻第1号, 創文企画, 46-50.
- 49) 丸山真司 (2015) : 「体育の『学習指導案』再考—ひと味違う指導案づくりに向けて—」, 『たのしい体育・スポーツ』第34巻第8号, 創文企画, 8-11.
- 50) 丸山真司 (2016) : 「『体育は何を教える教科か』を問い直す」, 『日本教科教育学会誌』第38巻第4号, 日本教科教育学会, 111-116.
- 51) 加納裕久, 久我アレキサンデル, 玉腰和典, 丸山真司 (2016) : 「幼児期における定位能力・分化能力の発達の特性—投・跳動作に着目して—」, 『発育発達研究』No. 70, 日本発育発達学会, 36-47.
- 52) 丸山真司 (2018) : 「「アダプテッド・スポーツ」実践の試み—「ともに意味を問い直す」授業づくりを目指して—」, 『たのしい体育・スポーツ』第37巻第1号, 創文企画, 56-59.
- 53) 丸山真司 (2018) : 「いまこそ, 教師主体の体育カリキュラム開発に取り組もう—岨和正氏の体育実践研究史から学ぶこと—」, 『体育科教育』第66巻第3号, 大修館書店, 33-37.
- 54) 丸山真司 (2019) : 「体育におけるルール学習と『ともに意味を問い直す』授業の創造」, 『体育科教育』第67巻第1号, 大修館書店, 12-16.
- 55) 丸山真司・久我アレキサンデル (2019) : 「重点教材を年間計画に位置づける意味」 「重点教材を活

- かした年間計画を教師が創る一実践分析を通して—, 『たのしい体育・スポーツ』第38巻第1号, 創文企画, 6-7, 48-51.
- 56) 久我アレキサンデル・丸山真司 (2020): 「ペルーの学校体育の教科内容編成にみられる特徴および課題—ナショナル・カリキュラムにおける初等・中等体育カリキュラムに着目して—」, 『日本教科教育学会誌』第43巻第1号, 日本教科教育学会, pp. 1-11.
- 57) 丸山真司 (2021): 「体育教師のカリキュラムづくりに向かう『実践的認識』の形成-変容プロセス—小学校教諭S氏のライフヒストリー・アプローチ—」, 『愛知県立大学教育福祉学部論集』第69号, 57-67.
- 58) 遠座未菜・丸山真司 (2022): 「カンボジアの幼児教育の歴史と幼稚園教員養成校の課題」, 『中部学院大学・中部学院大学短期大学部 教職実践研究』第1号, 51-58.
- 59) 丸山真司 (2023): 「運動文化の学びを『ともに生きる』につなぐ体育実践の創造に向けて」, 『愛知県立大学教育福祉学部論集』第71号, 1-14.

(その他)

- 1) 丸山真司 (1995): 「大学体育におけるバレーボールの『歴史追体験学習』の試み」, 『大学体育のFD』, 全国大学体育連合編, 30-37.
- 2) 丸山真司 (1996): 「石原実践へのコメント」, 『体育科教育』第44巻第13号, 大修館書店, 71-72.
- 3) 丸山真司 (1998): 「堤吉郎先生のフラッグフットボールの授業」, 『たのしい体育・スポーツ』第17巻第8号, 創文企画, 32-34.
- 4) 丸山真司 (1999): 「教育課程の自主編成に向けて—教育課程自主編成プロジェクトの発足と活動—」, 『運動文化研究』(学校体育研究同志会研究年報), Vol. 17, 103-109.
- 5) 丸山真司 (2001): 「『私たちの教育課程』(試案)づくりのこれからの課題」, 『たのしい体育・スポーツ』第20巻4号, 創文企画, 40-43.
- 6) 丸山真司 (2001): 「鑑賞と表現」, 「ゲーム分析」, 「競争」, 藤田和也・数見隆生・久保健編『子どものからだと心 健康教育大事典』, 旬報社, 507-508, 517-518, 521.
- 7) 丸山真司 (2005): 「海外研究動向; ドイツ在外研究報告記—ドイツにおける学校スポーツレアラ

ン(指導要領)について—」, 『運動文化研究』(学校体育研究同志会年報) Vol. 23, 104-108.

- 8) 丸山真司 (2005): 「ドイツの子どもたちに『ドル平』指導—ドイツ在外研究外伝—」, 『たのしい体育・スポーツ』第24巻第9号, 16-17.
- 9) 丸山真司・砂谷元彦 (2008): 「若い教師が育つために」, 『たのしい体育・スポーツ』第27巻第1号, 創文企画, 28-31.
- 10) 丸山真司 (2008): 「『試案』づくりが投げかけたもの」, 『たのしい体育・スポーツ』第27巻第10号, 創文企画, 40-41.
- 11) 丸山真司 (2009): 「器械運動クロスカリキュラムの可能性と課題」, 『たのしい体育・スポーツ』(第139回学校体育研究同志会全国大会提案集), 学校体育研究同志会, 50-56.
- 12) 丸山真司・岩田靖 (2011): 「体育における『教具』とは」(対談), 『体育科教育』第61巻第6号, 10-15.
- 13) 丸山真司 (2011): 「体育教師としての中村敏雄の研究と経歴」, 『たのしい体育・スポーツ』第30巻第10号, 創文企画, 8-9.
- 14) 玉腰和典・丸山真司 (2012): 「震災を乗り越えた力—浜市小学校の教師集団と渡辺孝之一—」, 『運動文化研究』(学校体育研究同志会年報) Vol. 29, 54-58.
- 15) 丸山真司 (2012): 「私たちは教科外体育をどう位置づけるか」, 『たのしい体育・スポーツ』(学校体育研究同志会第145回全国研究大会提案集), 2-9.
- 16) 丸山真司 (2013): 「実践の理論化を目指す教科教育学としての体育科教育研究の開拓—佐藤裕(1931-2011)—」, 『体育科教育』第61巻第1号, 54-55.
- 17) 丸山真司 (2013): 「家庭・地域を視野に入れた学校体育の創造」, 『たのしい体育・スポーツ』(第147回学校体育研究同志会全国大会提案集), 2-4.

IV 学会等発表

- 国際学会: 5回
○国内学会: 33回

V 科学研究費助成金による研究

- 1) 高橋健夫 (代表): 「日本および諸外国の学校体育カリキュラムの実状と課題」, 1999-2000年度科学研究費補助金 (基盤研究(A1))
(「ドイツにおける理念, カリキュラムとその現状」を分担)
- 2) 森敏生 (代表): 「体育科教育における課題解決学習と課題解決能力の形成—教材・共同的な学習システム・課題解決行為のダイナミックな関係性—」, 1999-2000年度科学研究費補助金 (基盤研究(B1))
- 3) 森敏生 (代表): 「体育におけるカリキュラムマネジメントに関する研究—授業実践におけるカリキュラムの自己創出性の観点として—」, 2003-2005年度科学研究費補助金 (基盤研究(B1))
(「社会的正当化を指向するカリキュラムマネジメント—ドイツのNRW州のスポーツカリキュラム改革を手がかりに—」を分担)
- 4) 真田久 (代表): 「オリンピック教育の実践に向けた教材開発と授業モデル形成に関する研究—東アジアオセアニア諸国と連携して—」, 2003-2006年度科学研究費補助金 (基盤研究(A))
(「ドイツの学校スポーツにおけるオリンピック教育の展開」を分担)
- 5) 丸山真司 (代表): 「実践を基盤にした教師による体育カリキュラム開発の方法に関する研究」, 2008-2010年度科学研究費補助金 (基盤研究(C))
- 6) 近藤智靖 (代表): 「ドイツ語圏の学校教育における *Bewegte Schule* の実情と課題について」, 2008-2010年度科学研究費補助金 (基盤研究(C))
(「ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州における *Bewegte Schule* の構想と実践」を分担)
- 7) 森敏生 (代表): 「体育科教育における教授—学習内容の体系化と系統化への活動理論的アプローチ—」, 2009-2011年度科学研究費補助金 (基盤研究(B))
- 8) 坪井由美 (代表): 「人間発達の保障をめざす教育福祉ガバナンスと教育委員会改革に関する理論と実践の研究」 2011-2013年度科学研究費補助金 (基盤研究(B))
(「地域を視野に入れた学校体育の創造—教科外体育再興—」を分担)

- 9) 丸山真司 (代表): 「スクール・ベースト・アプローチによる小学校体育カリキュラム開発に関する研究」, 2011-2013年度科学研究費補助金 (基盤研究(C))
- 10) 丸山真司 (代表): 「実践を基盤にした体育教師のカリキュラム開発能力の形成」, 2014-2017年度科学研究費補助金 (基盤研究(C))
- 11) 丸山真司 (代表): 「スクール・ベースト・アプローチによる学校体育のカリキュラム評価に関する研究」, 2018-2022年度科学研究費補助金 (基盤研究(C))

VI 学会および社会における活動

- ・日本体育・スポーツ・健康学会 (旧日本体育学会) 会員 (1980年4月～現在に至る)
- ・日本教科教育学会会員 (1980年4月～現在に至る)
- ・中国四国教育学会会員 (1980年4月～1987年3月まで)
- ・東海体育学会会員 (1982年4月～現在に至る)
- ・学校体育研究同志会会員 (1989年9月～現在に至る)
- ・日本体育科教育学会会員 (1995年4月～現在に至る)
- ・日本スポーツ教育学会会員 (1996年4月～現在に至る)
- ・日本体育科教育学会理事 (2002年10月～2021年9月), 常任理事 (2007年10月～2015年9月), 日本体育科教育学会誌編集委員長 (2011年10月～2017年9月)
- ・公立大学協会公立大学政策委員会ワーキンググループ委員 (2006年4月～2007年3月)
- ・日本体育科教育学会第15回大会実行委員長 (於: 愛知県立大学) (2010年6月)
- ・「丸ゼミ東北支援プロジェクト」(愛知県立大学) を立ち上げ、宮城県で被災した学校や教師に対して支援活動展開 (2011年3月～2012年3月)
- ・第144回学校体育研究同志会全国研究大会実行委員長 (於: 愛知県立大学) (2011年8月)
- ・日本教科教育学会理事 (2012年10月～現在に至る), 常任理事 (2015年10月～現在に至る)
- ・教科教育学コンソーシアムジャーナル (教科教育学コンソーシアム編集委員会) 編集委員長 (2022年4月～現在に至る)